

僕と生成AIの夏休み

村山 珀也

「私はこの作文コンクールで最優賞を受賞
 するために、生成AIを使って作文を完成さ
 せました。自分で作るよりもずっと早く、手
 軽に完成度の高いものができました。おそら
 く審査員の方もこの作品が生成AIを使った
 ものであるのかが否かについては判別できな
 いのではないでしょうかと。と言ったらどう
 でしょう。このようにことが実際に行われて
 いるということも聞いたことがあります。果
 たして本当に生成AIの作文は優れているの
 でしょうかと。」

まずはじめに、生成AIとは、「ジェネレ
 ーティブAI」とも呼ばれ、さまざまなコン
 テンストを生成できるAIのことです。デー
 タのバタリオンや関係を学習し、新しいコン
 テンストを生成することを目的としています。
 AIで生成できるものとしては、文章、画像、
 音声、音楽、動画などが有名です。文章とい

っても、Web上にある情報から、条件に充
 じた内容を検索して表示するのではありませ
 人。様々な情報を組み合わせ、新しい文章
 を生成することが出来ます。メールの文案、
 論文、ホエム、歌詞などを生成することがで
 きます。自分が作成したいコンピュ
 ータープログラムの内容を文章で入力すること
 で、プログラムのコードを生成することも
 出来ます。また、システム開発のために必要
 なテストデータも生成出来ます。

多くの作文コンクールでは応募の条件とし
 て、「生成AIを使用しないこと」や「オリジ
 ナルの作品であること」などの条件が付い
 ています。しかしながら、生成AIが作った
 文章であるかどうが見抜くのはとても困難で
 あることと逆手にとって、生成AIを使用し
 て自作の作文として提出する人がまねに
 いるようです。生成AIの文章をそのまま流用す
 ることは、他人の文章をそのまま流用する
 「盗作」と同じことではないかと思
 います。

確かに生成AIが活躍できる場面が多くあることも事実だと思いますが、作文コンクールにおいてはどうでしょうか。生成AIの考えたものを応募する人はどのようなことを考へて応募しているのでしょうか。入賞することとが極めて困難な全国規模のコンクールは、自力での入賞は不可能と思うのでしょうか。今まで何度も宿題に出たであろう読書感想文や作文。自分の力では書けず、親の力を借りたり、満足できないまま提出せざるを得なかったり、嫌な気持ちばかりが募ったことでしょうか。それであれば生成AIを使って書いてしまおう。案外、良い感じに仕上がったのでそれを提出してしまおう。時間がもったいなので、自分で考えるより生成AIに任せて早く済ませてしまおうと思いついた生成AIを使ってしまおう。そのようばことがあるのではないのでしょうか。

A Iとの共作の場合はどうでしょうか。9割方をA Iが作り、部分的に手を入れたとい

う程度ではオリジナル作品とは言えません。では、どこまでがセーフで、どこからアウトなのでしょう。その線引きは困難です。AIが作った文章やコピーの形跡がはきりと残っていて、わずかに数行でも一字一句同じものが複数存在したらアウトかもしれない。偶然の一致が、仮に同じものが存在しても、偶然の一致がしばしば起きるようになりふれた表現なら問題にはならないはず。

生成AIはとても便利で仕事や学習など様々なことに使われています。しかし、その使い方を誤ってはけません。生成AIが作ったものはただの文字の羅列です。作文というものは、その人の置かれた環境・条件に応じてその人が実際に感じた感情が宿って初めて成り立つものだと思います。感情が宿っていない文章は「作文」ではなく、単なる機械的な文章です。例えば生成AIに「夏休み」というテーマで文章を書かせてみました。実際に書かせてみると、何度試してみても夏休

みを全力で楽しんだという結末にたどり着きます。しかし、ある人の場合は、塾の夏期講習や学校からの宿題に追われてしまい、夏休みは全く楽しくなかったというところもあるでしょう。また、ある人の場合は、友達とプールに行っただけど、自分だけ泳ぎが苦手で悲しい思いをしたかもしれません。

生成AIは、様々な情報を組み合わせるとしても、結局はよくあることをただただキーワードとしてつなぎ合わせ、それを文章として見せているだけだと感じます。生成AIによる「盗作」がばれてしまうのが否かという問題以前に、感情のこもっていない作文を生成AIで作ること自体が無意味なのではないかと改めて思いました。生成AIが悪いものだとは思っていません。ただ、使い方をしっかりと自分で考えなくてはいけないと感じた夏休みでした。